



オリンピックは今から中止でも遅くない



オリンピックは安倍晋三前首相が全世界に向かって「大嘘」について招致が決定されました。例の「アンダーコントロール」発言である。福島の被災地は未だに放射能汚染に侵されています。事実には蓋をして招致されました。しかも、その後、放射能汚染水処理問題や汚染土の最終処分場問題が未解決で放置されてきています。

当時安倍前首相は東北3県の復興を言い、「復興五輪」として位置づけました。しかし、今では復興問題は吹っ飛んでいます。一つの例として、オリンピック関連の工事に従事してきた『月刊まなぶ』（東京在住）読者によると、復興をよそに、東北3県の建設労働者は、オリンピック関連施設建設の「工賃」が地元の2倍を上回するため、東京に引き寄せられたといえます。オリンピック

クありきだったのです。

現在もその実態に変化がないばかりか、さらに菅自公政権と小池都知事は猪突猛進で突き進もうとしています。政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長の発言「パンデミックの状態では普通はあり得ない」は、科学者として当然の考えですが、菅首相は聞く耳持たずの始末です。

多くの感染症の専門家はその知見から意見や提言を行ってききましたが無視されたままです。国民の「健康と生命」を守るといふならば、コロナ感染拡大を封じ込めるには、一刻の猶予がないと考えます。オリンピックは今からでも中止すべきです。

労働大学企画編集委員 佐久間和俊